

2018年漁期におけるヤリイカの漁況予測結果

2018年漁期（2018年8月-2019年3月）に青森県-北海道渡島-岩手県で漁獲されるヤリイカの漁況予測を行ったので、その結果をお知らせします。

【予測結果】 約2,800トンと前年を上回る

予測漁獲量：2,766トン

前年（2017年8月-2018年3月）の漁獲量2,171トンに比べて127%

直近5ヶ年（2013年-2017年）の平均漁獲量1,915トンに比べて144%

※予測に用いた北海道の8-11月の漁獲量が、12月21日発行のウオダス2008号以降に確定したため、ウオダスに掲載した数値と若干異なっている。

なお、従来の予測方法では近年、予測結果が実際の漁獲量よりも高い値を示していた(図1)。また、近年の盛漁期が3月にずれ込んで来た。これらのことから、予測方法について見直しを行い、今回から予測する漁期をこれまでの8月-翌年2月から8月-翌年3月へ変更した(図2)。しかしながら、直近2年間の予測値が依然として実際の漁獲量よりもやや高いため、2018年漁期の漁獲量が予測値よりもやや少なくなる可能性がある。

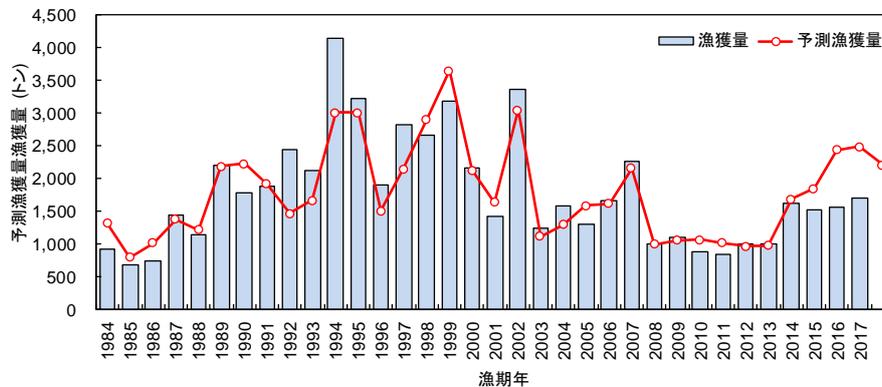


図1 ヤリイカの漁期全体(8-翌2月)の漁獲量と予測値の推移

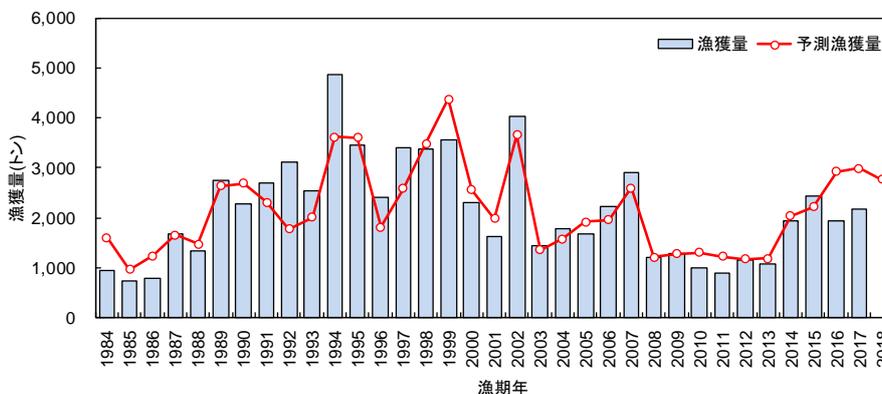


図2 ヤリイカの漁期全体(8-翌3月)の漁獲量と予測値の推移

【漁獲状況】

1985年漁期に733トンと最低となって以降、増加に転じ2000年漁期頃まで2,000-5,000トンで推移した。2000年漁期に減少した後に横ばいとなり、2002年漁期と2007年漁期を除き、1,000-1,500トン程度で推移し、2014年漁期以降に若干増加に転じ、2014-2017年漁期は1,900-2,400トンで推移している。

【方法】

予測対象：2018年8月-2019年3月のヤリイカの漁獲量

予測海域：青森県-北海道渡島-岩手県（青森県日本海沖合底びき網漁業を除く）

予測方法：説明変数として当該海域の漁期序盤（8-11月）の漁獲量Aと、目的変数として漁期全体（8月-翌年3月）の漁獲量Bについて回帰分析を行った結果、有意な回帰が認められ（ $p < 0.001$ ）、切片および傾きともに有意であった（ともに $p < 0.001$ ）。従って、 $B = 3.90 \times A + 692.51$ （寄与率74.0%）という回帰式を得て、今年の漁期序盤の漁獲データを代入して求めた（図3）。

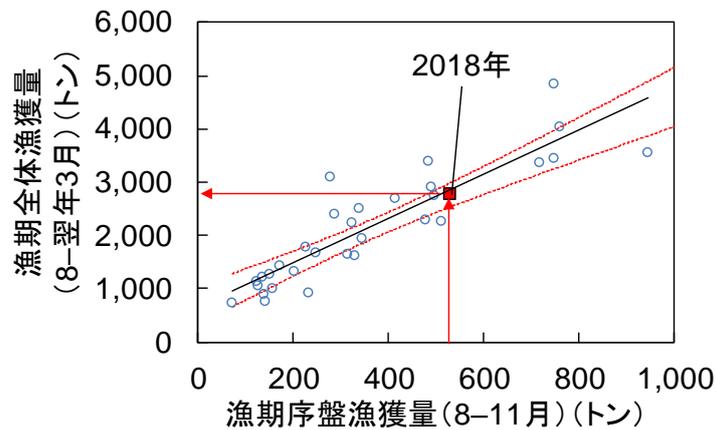


図3 漁期序盤と漁期全体の漁獲量の関係